



窓武江

の堅戸

す著

き俗聞

み談集

全全全



窓武江

戸聖の

著す
間俗と

談み集

全全全

昭和七年六月十日
昭和七年六月十四日

印刷
發行

有朋堂文庫
窓のすさみ・武蔵
俗談・江戸著聞集
(非賣品)

編輯者

塚本哲三

東京府下大久保町西大久保二百三十六番地

印刷者兼
發行者

三浦捷一

東京市神田區錦町一丁目十九番地

印刷所

合資
有朋印刷社

東京市神田區錦町三丁目九番地

發行所

有朋堂書店

東京市神田區錦町一丁目十九番地

不許複製

緒言

窓のすさみと同書追加とは、共に松崎堯臣の作述する所に係り、徳川時代の初め頃より享保の當時に至る見聞の雜記にして、録する所、忠孝、貞節、仁慈、勇武等の美談其多きに居り、健全なる修養書の一として讀者を利する所尠なからず、文亦古雅と通俗とよく融和調節して、此種記事文中の白眉と稱するに足る。堯臣は篠山侯青山下野守の臣にして、字は子充、白圭と號せり。伊藤東涯、物徂徠、三輪執齋等に師事して所謂經世濟民の學を修得する所甚だ深く、後擢でられて老臣の班に列し、治績の見るべきもの尠少なかりしといふ。寶曆三年病みて逝けり、年七十二。

武野俗談と江戸著聞集とは、共に馬文畊の著はす所、寶曆七年の作にして、江戸俗間に有名なりし人物事件を録叙し、俗傳の過誤を正せり。其言ふ所必らずしも的確妥當なりと認むべからざるは論なしと雖も、江戸文學に交渉する所尠なからざりしそれら幾多の人物事件に關する一家の觀察として、又當時の世態人情を窺ふべき一部の記録として、其價值亦

甚だ輕しといふべからず。文は純然たる當時の俗文にして、文學的評價の對照となすべからざるや論なし。馬文畊は幕府の徒士にして、本名を馬場文助と稱す。本書の外にも此種の述作少なからず、著述中貴顯の陰事を摘發したるものあるが爲に罪を得、終に改易の刑に處せられたりといふ。

以上三種共に寫本を以て傳へられ、其版本として認むべきは博文館發兌の溫知叢書中に採録せる活字本あるのみ。寫本亦多種多樣にして、排列の前後し、文章の出入せる所少なからず。今本文庫に收むるに當りては、武野俗談は専ら關根博士珍藏の寫本に準據して傍ら二三の寫本を參酌し、窓のすさみと江戸著聞集とは校訂者が認めて比較的善良なりとなせる寫本を底本とし、之に參酌するに溫知叢書本を以てせり。武野俗談一に當世の二字を冠し、江戸著聞集一に江戸紀聞又近世江都著聞集といふ。著者の自序に據る時は「近世江都著聞集」となすの最も當を得たるを見ると雖も、姑く世間通用の稱呼に従ひて「江戸著聞集」と題したり。卷頭に掲げたる目錄の中、窓のすさみに關する部分は、校訂者が假に本文の

内容を摘録して作製し、以て讀書の檢索に便する所也。

本書の校訂と校正とに關しては、外島瀏石井晴信の兩氏を煩はしたる所甚だ多し、記して謝意を表す。

大正四年三月

校訂者 塚 本 哲 三

目録

窓のすさみ

第一

忠僕市兵衛……………	一
加賀守紀正盛の寛仁……………	五
楠正成の陣屋廻り……………	七
米屋治兵衛溺死者の人違ひ……………	二一
小野淺之丞猫に惱む……………	二三
木村重成の隠忍……………	一五
島津帶刀諸士を憐む……………	一六
九條大納言侍士を庇ふ……………	一七
某國君の仁慈……………	一八
加藤清正の慈悲心……………	一九

某士稻荷の老狐を威服す……………	二一
高虎私怨を捨てて嘉明を推薦す……………	二三
臣の忠節は君の心懸による説……………	二三
某君小童を庇ふ……………	二四
富商の遺訓……………	二四
富老債務に苦む者を救ふ……………	二五
正直なる乞食の話……………	二九
芝浦の正直孝子……………	三〇
利勝の寛仁……………	三四
老臣の心得……………	三四
島津義久弟の嚴刻を戒む……………	三五
酒井忠勝寛仁の教戒……………	三五
青山幸利火爐を設けて諸士を勞は る……………	三七
笹山の祖君の寛恕……………	三九
薩摩中將綱貴の同情……………	三九
奴僕と乗馬主人の敵を斃す……………	四〇

足利持氏手飼の猿	四二
水野忠春の具足始め	四二
泉八左衛門兄弟の田地争を和解せしむ	四三
繼母の忠誠	四二
光久朝臣重臣の子を使者に用ふ	四七
佐藤直方政道を説く	四八
安在子が掛物の比喻	四九
金を盗みし士の悔悟	五四
不良少年の改過	五六
國分彌左衛門の純孝	六一
後藤甚三郎孝行の爲に愛妻を去る	六一
小山田高家義貞の難を救ふ	六三
篠山先君の寛大	六四
國君小山某の嗣を立つ	六五
忠犬の話	六九
對山公の狩獵	六九
近習の選擇	七〇

第 二

重臣登用の心得	七一
人を使ふ道	七三
少年の器量主君を動す	七四
兩所明神の神職	七五
豐島刑部井上主計頭を切害す	七九
内藤忠勝永井尙長を切害す	八〇
稻葉正休堀田正俊を切害す	八一
前田利昌織田秀親を切害す	八二
堀部安兵衛高田馬場の働き	八四
義士神崎與五郎	八六
東叡山中堂建立當時の大火	八八
元祿十六年の大火と地震	八九
享保十三年の大出水	九〇
庄五郎の孝行	九一
板倉修理細川宗教を殺害す	九三

祐親の女が生める頼朝の一子……………九五
井伊直孝伊達政宗祕藏の家康神文を

焼く……………九六

火除場の沿革……………九九

江戸の遊女町……………一〇〇

淨瑠璃の流行……………一〇一

淫祠の繁昌……………一〇二

俳諧……………一〇三

本多重次大釜を破る……………一〇三

安藤正次の百物語……………一〇四

了膽の狂歌……………一〇五

神尾堀江に對する落首……………一〇五

茂久景久の剛直……………一〇六

阿部有定の高徳……………一〇六

庄左衛門の仁政……………一〇七

下女主君の怨恨を報ゆ……………一〇九

少年の奇智盜賊を捕ふ……………一一〇

菅沼喜左衛門の武藝と其友六左衛門

の剛勇……………一二一

駿河守忠敬の節約……………一二三

丹後守頼稔の美德……………一二四

忠昌の警固……………一二五

香西五郎右衛門大井川を渡る……………一二六

通子の奇才……………一二七

庄屋の妻の頓智……………一二八

芝浦の津波……………一二八

寛政の降水……………一二九

頼重と光圀……………一二九

對山公の久能參拜……………一三〇

井上相摸守の室……………一三一

忠義の息女……………一三三

佐倉侍從正盛の茶器……………一三三

有馬則維三千兩を防火の士卒に分つ……………一三四

堀田正清士臣の防火を告む……………一三四

柘植平太夫	一五
平岩若狹守死刑執行の用意	二五
瑞軒が知慧	二六
老儒二山彌三郎と其妻	二八
正信士の脇差にて僕を斬りたる者を 退く	二九
夏目全左衛門の殊勲	二九
道圓と道春	三〇
川越の化物屋敷	三〇
伊豫大洲の暴動	三三
讃岐丸龜の暴動	三三
若士の沈毅	三四
渡邊數馬の馬の口取	三五
下民の上を輕んずる風	三六
伊達村和と酒井八郎兵衛	三七
松山の君と肥後の君	三八
風俗の變遷	四〇

風俗の變遷	四一
板倉勝重京都所司代任命の當初	四二
名劔は疵あり	四三
荻生氏の高聲	四四
寶永六年禁裏の炎上	四四
女官繪島の淫亂	四五
盛衰と壽命	四六
佛信心	四七
祐天上人	四七
大佛を以て錢を鑄る	四八
田沼氏の寶の仁慈	四八
和泉守乗邑	五一
草津の化物宿屋	五二
女衞誘拐の一例	五四
依田佐介	五八
浪人狐に託して妻の不義を庇ふ	五九
某士柔弱の妻を去る	六〇

第三

高田の若侍	一六二
足輕の忠實	一六三
正直なる商家の僕	一六三
仁愛深き妻女	一六五
足輕の正直座頭を救ふ	一六六
上杉山人の質直好義	一六七
佐藤直方の直諫	一六八
三田庶流の君の使者	一七〇
觀瀾の奇行	一七一
木俣氏の儉約	一七二
豐就老儒の諫を川ふ	一七二
丸龜の花臣佐々何某	一七三
商家の二子の仇討	一七四
宿直の土の頓才	一七六
妙藥二種	一七六

大江師就の沈勇	一七七
勇士と平人	一七八
松平輝綱の食客	一七八
木屋吉左衛門	一七九
膏藥次郎兵衛	一八〇
庄内の士多田三左衛門	一八一
異見の仕方	一八一
横田甚右衛門	一八三
安宅丸の乗初	一八五
細野半助と渡邊助兵衛	一八七
鳥居孫右衛門の子息	一九〇
因幡守宗俊	一九〇
薩摩の臣牢屋に入るを拒む	一九二
佐久間曾平の義氣	一九三
小野次郎右衛門と御子神善鬼との試合	一九四
小野氏薩摩邸の試合	一九六

若き男の沈勇	一九八
青山の與力某	一九九
向坂次郎右衛門	二〇〇
蘭亭の父百里の辭世	二〇四
深草元政上人	二〇四
石川丈山	二〇五
乘馬の達人爲井權之丞	二〇五
光久朝臣祕藏の老馬	二〇六
御書院番の二士	二〇七
松平信孝御書院番頭の任命	二〇八
姦淫の女と誠實なる聶養子	二〇八
鴻巣の烈女	二〇九
如來寺の小年賊と闘ふ	二一一
うりの仁介	二一二
采女原の乞丐	二二三
富永伴意の豫言	二二三
伴意町奴を苦む	二二四

伴意某藩醫を戒む	二二四
銀座中村内藏助の驕奢	二二五
中村内藏助の輕卒	二二五
永田權左衛門と楠戸宗本との對決	二二七
日本左衛門	二二九
指扇源次郎	二三一
夜盜無二右衛門	二三三
仙臺の飛脚の剛勇	二三四
熊谷鍋屋の奴僕賊を斬る	二三四
荒卷十左衛門人違ひにて斬らる	二三五
兄弟二人母の仇を討つ	二三六
深井藤太夫の妻の弟	二三八
旗本の息女の密通	二二九
平川大神別當骨族の僧の忠僕	二三〇
彌五左衛門及び其子甚五左衛門	二三〇
高木右馬介	二三一
甲斐少將立身の初め	二三三

五丸殿……………二二三

佐久間立齋……………二二三

侍女そよの忠死……………二二五

鮑貝に入れて埋めたる金二三兩……………二二六

伊賀侍従の小頭巧に出奔人を捕ふ……………二二六

代官藁の出所によりて賊を吟味す……………二二七

山宮官兵衛と破門兵衛……………二二八

貞晚僧正苛政を難す……………二二九

胤海僧正の狂歌……………二四〇

水野の仁政子をまびく風を改む……………二四〇

片倉小十郎家士の武術……………二四一

窓のすさみ追加

卷之上

辰巳屋の祖父の正直……………二四二

兩替見世の金を奪ひし士……………二四四

僧無南の飄逸……………二四六

僧無南の飄逸……………二四七

松島の僧雲居……………二四八

執著深き僧……………二四九

目黒の白狐……………二五〇

彦坂九兵衛の沈著……………二五二

篠山侍従刑政の一例……………二五三

同……………二五四

稻葉正勝國性爺への加勢に反對す……………二五五

花本外記……………二五六

門間治郎左衛門等刃傷の士を匿す……………二五七

古七太夫母の能評……………二五八

觀世太夫の逸話……………二五九

一谷の冑……………二五九

和泉守高虎の具足の説……………二六〇

高田彌五兵衛の剛勇……………二六〇

稻葉伊勢守の變死……………二六一

松前伊豆守海北友竹の言に感ず……………二六二

雅樂頭忠清の寛度	二六二
忠行君臣の合體	二六三
中江藤樹の高徳	二六四
藤樹の廟	二六五
本多氏の婢	二六五
加賀守正盛の寛恕	二六六
留守居の士の巧なる答辯	二六七
某大名のわたり小姓	二六八
死人の蘇生	二六九
義弘の小姓伊集院江閑を斬る	二七〇
笠原長順子息の教育	二七〇
但馬守喬朝猿樂を呼ぶ心掛	二七一
石谷土入の眼識	二七二
小堀遠州	二七三
女子男子に變ず	二七三
不仁の獵師	二七四
奇計虎を殺す	二七五

平家谷	二七六
商人義弘の意を救ふ	二七六
關文左衛門の伯父兄宋の主となる	二七八
猷廟士の直言を賞す	二八〇
直孝惣廓の義に反對す	二八〇
劔客片桐空臺	二八一
仁齋火災に酒盛して騒がず	二八三
關戸奎左衛門の沈勇	二八三
惠比須像の由來	二八四
篠山侍従の臨終	二八五
近江守總茂溝水にて腰板を洗ふを戒む	二八五
三宅丹治獄中の奇行	二八五
佐藤直方の政治論	二八六
湯口熊治若氣の過	二八七
奥平傳八妻の貞節	二八七
直孝執政の心得を説く	二八八
忠勝信綱の頓智を難す	二八九

卷之下

間部氏の足輕農民の末進を納めしむ	二九〇
老人の早業	二九二
篠山家士の下部の早業	二九三
某士山賊を服す	二九四
古七太夫兒を失ひて畫の妙諦を悟る	二九五
川越の正直	二九七
孝子太郎、孝女市	二九八
小栗又市郎	二九九
御物頭護持院僧正の通行を拒む	三〇一
將軍寺法に干涉せず	三〇二
將軍醉漢に烏を賜ふ	三〇二
横溝唯七の忠誠	三〇三
菅大膳と細野忠兵衛との對決	三〇四
篠山侍從桐壺といふ牡丹の話	三〇五
忍侍從忠秋鶉の話	三〇六

近江守總茂三幅一對の畫	三〇七
四方一火災を豫知す	三〇八
農家の少女の頓智	三〇八
中川家孤狩の話	三〇九
大安公鶴をとりたる狐	三一
狐驗者の妻に馮る	三二
必死の覺悟怪病を治す	三三
柔術士の思慮	三四
珍藏の鶉を焼きて肴とす	三五
奴萩原源兵衛の恩愛に感ず	三六
大島傳八	三六
數直逼塞中猷廟の跡より忍びて上洛す	三七
道圓の直諫	三八
篠山の老臣伴善左衛門	三九
中院前内府の御後見振	三〇
前内府南光坊の蟄居	三一
愛久津彌太夫の釣	三二

俠客向溝八左衛門	三三四
德菴鼓の狂歌	三五
清泰院殿の貞節	三五
執政忠朝某國君の役人の手落を庇ふ	三六
篠山侍從關東より贈遣の時服の逸話	三六
太刀進上の使者の話	三七
志方茂右衛門使して君命を辱しめず	三八
落合主税助籠城の使者	三九
佐倉少將利勝質素の茶事	三〇
衣服質素の一例	三一
篠山の故先君	三一
衣服質素の一例	三一
烏丸光廣の超俗	三三
實業實種兩卿の火災の連歌	三四
芭蕉布の唱和	三四
娼妓の誠	三五

武 野 俗 談

卷之一

名畫九霞の事	三四一
藤植檢校鼓弓名人の事	三四二
山彦烏羽屋三絃の事	三四二
區匠木履の事	三四三
淨林釜藤四郎焼の事	三四三
天神新助名灸の事	三四四
快全圍碁の事	三四四
中將碁の事	三四五
七國將碁の事	三四五
篠崎三哲の事	三四六
平澤左内が事	三四七

卷之二

橋場總泉寺柳吞和尚頓話の事	三五〇
---------------	-----

頓海秀天談義に高名の事并鐵城要傳

寺說法上手の事……………三五

今弘法と言ふ時花坊主の事……………三五

押上大雲寺順譽和尚の傳……………三七

卷之三

御藏前おぼあが傳……………三八

大口八兵衛が傳……………三六〇

勝間龍水が傳……………三六一

河七庭花近江屋二の町身請問違の事……………三六三

卷之四

淺草御藏前曉雨が傳……………三五五

北鞘町東伊が傳……………三六九

卷之五

御聖人庄介が傳……………三七三

冬瓜仁右衛門が事……………三七五

新場九郎兵衛が傳……………三七七

風鈴五郎七が事……………三八〇

卷之六

松葉屋瀬川卜筮に名高き事……………三八一

大巴屋どら娘と仇名を取りし事……………三八七

卷之七

深川藝子米蝶が傳……………三八九

南樓京屋みや古が傳……………三九八

音羽町石見屋おしげが傳……………三九四

卷之八

根津のからすお岩が傳……………三九七

夜發一とせおしゆんが傳……………三九八

湊屋お六が傳……………三九九